

建物の簡易耐震診断をやってみよう！

今住んでいる住宅が、地震に対して安全かどうかを簡易に診断できます。判断の目安にしてください。この判断は、在来工法（ツーバイフォー工法を含む）で建てられた一戸建てを対象としています。

問診
1

建てたのはいつ頃ですか？

項 目	評 点	自己評価
建てたのは昭和56年(1981年)6月以降。	1	
建てたのは昭和56年(1981年)5月以前。	0	
よく分からない。	0	

説明 1981年6月に建築基準法が改正され、耐震基準が強化されました。1995年版神淡路大震災において、1981年以降建てられた建物の被害が少なかったことが報告されています。

以前

1981年5月

1981年6月

以降

問診
2

いまままでに大きな災害に見舞われたことはありますか？

項 目	評 点	自己評価
大きな災害に見舞われたことがない。	1	
床下浸水・床上浸水・火災・車の突入事故・大地震・崖上隣地の崩落などの災害に遭遇した。	0	
よく分からない。	0	

説明 ご自宅が長い風雪のなかで、床下浸水・床上浸水・火災・車の突入事故・大地震・崖上隣地の崩落などの災害に遭遇し、わずかな修復だけで耐えてきたとしたならば、外見では分からないダメージを蓄積している可能性があります。この場合専門家による詳しい調査が必要です。



問診
3

増築について

項 目	評 点	自己評価
増築していない。または、建築確認など必要な手続きをして増築を行った。	1	
必要な手続きを省略して増築し、または増築を2回以上繰り返している。増築時、壁や柱を一部撤去するなどした。	0	
よく分からない。	0	

説明 一般的に新築してから15年以上経過すれば増築を行う事例が多いのが事実ですが、その増築時、既存部の適切な補修・改修、増築部との接合をきちんと行っているかどうかのポイントです。



問診
4

傷み具合や補修・改修について

項 目	評 点	自己評価
傷んだところはない。または、傷んだところはその都度補修している。健全であると思う。	1	
老朽化している。腐ったり、しろありの被害など不都合が発生している。	0	
よく分からない。	0	

説明 お住いになっている経験から、建物全体を見渡して判断して下さい。屋根の軒・軒先が波打っている。柱や床が傾いている。建具の建付が悪くなったら老朽化と判断します。また、土台をドライバー等の器具で突いてみて「ガサガサ」となっていれば腐ったり白蟻の被害にあっています。とくに建物の北側と風呂場まわりは念入りに調べましょう。白蟻は、梅雨時に羽蟻が集団で飛び立ったかどうか判断材料になります。

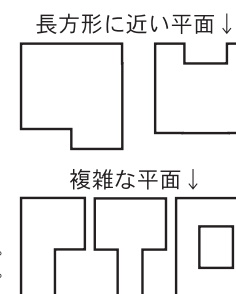


問診
5

建物の平面はどのような形ですか？

項 目	評 点	自己評価
どちらかというとき長方形に近い平面。	1	
どちらかというときL字・T字など複雑な平面。	0	
よく分からない。	0	

説明 整形な建物は欠点が少なく、地震に対して建物が強い形であることはよく知られています。反対に不整形な建物は地震に比較的弱い形です。そこでまず、ご自宅の1階平面形がだまかに見て、長方形もしくは長方形と見せせるか、L字型・コの字型等複雑な平面になっているのかを選びとって下さい。現実の建物は凹凸が多く判断に迷うところですが、ア)約91cm(3R)以下の凹凸は無視しましょう。イ)出窓・突出したバルコニー・柱付物干しバルコニーなどは無視します。

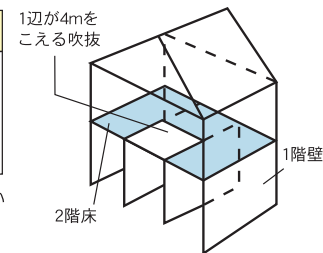


問診
6

大きな吹き抜けがありますか？

項 目	評 点	自己評価
一辺が4m以上の大きな吹き抜けはない。	1	
一辺が4m以上の大きな吹き抜けがある。	0	
よく分からない。	0	

説明 外見は形の整っている建物でも大きな吹き抜けがあると、地震時に建物をゆがめる恐れがあります。ここでいう大きな吹き抜けとは一辺が4m(2間)をこえる吹き抜けをいいます。これより小さな吹き抜けはないものと扱います。

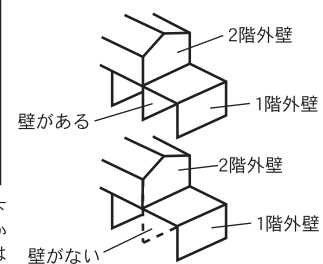


問診
7

1階と2階の壁面が一致しますか？

項 目	評 点	自己評価
2階外壁の直下に1階の内壁または外壁がある、または平屋建てである。	1	
2階外壁の直下に1階の内壁または外壁がない。	0	
よく分からない。	0	

説明 2階の壁面と1階の壁面が一致していれば、2階の地震力はスムーズに1階壁に流れます。2階壁面の直下に1階壁面がなければ、床を介して2階の地震力が1階壁面に流れることとなり、床面に大きな負荷がかかります。大地震時には床から壊れる恐れがあります。枠組壁工法の木造（ツーバイフォー工法）は床の耐力が大きいため、2階壁面の直下に1階壁面がなくても、評点1とします。

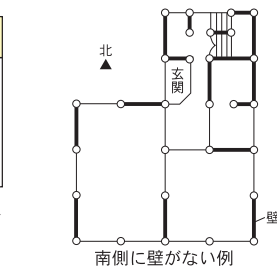


問診
8

壁の配置はバランスがとれていますか？

項 目	評 点	自己評価
1階外壁の東西南北どの面にも壁がある。	1	
1階外壁の東西南北各面の内、壁が全くない面がある。	0	
よく分からない。	0	

説明 壁の配置が片寄っていると、同じ木造住宅の中でも壁の多い部分は揺れが小さく、壁の少ない部分は揺れが大きくなります。そして揺れの大きい部分から先に壊れていきます。ここでいう壁とは約91cm(3R)以上の幅を持つ壁です。せまい幅の壁はここでは壁とみなしません。

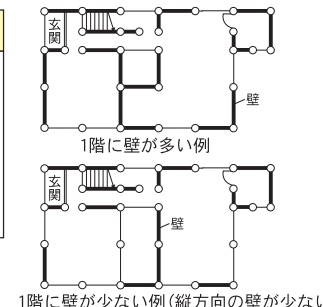


問診
9

屋根葺材と壁の多さは？

項 目	評 点	自己評価
瓦など比較的重い屋根葺材であるが、1階に壁が多い。	1	
また、スレート・鉄板葺・銅板葺など比較的軽い屋根葺材である。	0	
和瓦・洋瓦など比較的重い屋根葺材で、1階に壁が少ない。	0	
よく分からない。	0	

説明 瓦は優れた屋根葺材のひとつです。しかし、やや重いため採用する建物ではそれに応じた耐力が必要です。耐力の大きさは概ね壁の多さに比例しますので、ご自宅は壁が多い方かどうか判断してください。

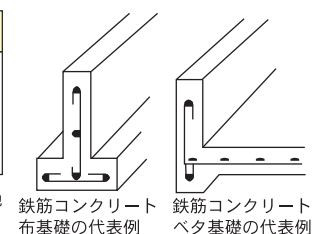


問診
10

どのような基礎ですか？

項 目	評 点	自己評価
鉄筋コンクリートの布基礎またはベタ基礎・杭基礎。	1	
その他の基礎。	0	
よく分からない。	0	

説明 鉄筋コンクリートによる布基礎またはベタ基礎・杭基礎のような堅固な基礎は、その他の基礎と比べて同じ地震に建っているでも、また同じ地震に遭遇しても丈夫です。改めてご自宅の基礎の種別を見直して下さい。



自己評価の
合計数



評点の合計

10点 → ひとまず安心ですが、念のため専門家に診てもらいましょう。
8～9点 → 専門家に診てもらいましょう。
7点以下 → 心配ですので、早めに専門家に診てもらいましょう。

(「財」日本建築防災協会「誰でもできるわが家の耐震診断」による)

発行・問い合わせ先
薩摩川内市 建設部 建築住宅課

電話 0996-23-5111(内線3642・3643) FAX 0996-23-8389
電子メール ken-sidou@city.satsumasendai.lg.jp

耐震改修促進計画とは

平成7年1月の阪神・淡路大震災では、6,434名の尊い命が奪われ、このうち4,831名が住宅・建築物の倒壊等によるものでした。そして、この時倒壊した住宅・建築物の多くは、昭和56年以前に建設された現行の新耐震基準に適合していない住宅・建築物でした。

近年も平成17年3月の福岡県西方沖地震、平成28年4月の熊本地震などの大地震が頻発しており、本市においても、平成9年3月、5月に薩摩地方を震源とする震度5強と震度6弱の地震が発生したことは記憶に新しいところです。我が国において、大地震はいつどこで発生してもおかしくない状況にあるとの認識が広がっています。

そのため、本市において、鹿児島県との協力のもと、耐震化の目標などを取りまとめた『薩摩川内市耐震改修促進計画』を策定し、今後発生が予想される地震による住宅や建築物の倒壊及びこれに起因する被害を減少させる「減災」の取り組みを推進します。

平成30年3月 薩摩川内市



耐震改修促進計画の基本的事項と目標

- 対象区域

薩摩川内市全域
- 計画期間

平成37年度まで

※ただし、計画の達成のため、計画期間中における進捗状況の確認及び計画内容の検証を行い、必要に応じて計画の見直しを行う。
- 対象建築物

すべての住宅・建築物

昭和56年以前の旧耐震基準で建築された以下の建築物（既存耐震不適格建築物）

①住宅：戸建て住宅、長屋、共同住宅（賃貸・分譲）を含む全ての住宅

②要緊急安全確認大規模建築物

・病院等の不特定多数の者が利用する大規模建築物、学校、老人ホーム等の避難弱者が利用する大規模建築物、一定量以上の危険物を取り扱う大規模な貯蔵場等（法附則第3条第1項）

③要安全確認計画記載建築物

・防災拠点建築物として県促進計画に示された建築物（法第5条第3項第1号）

④特定既存耐震不適格建築物

1）多数の者が利用する建築物で一定規模以上の学校、老人ホーム等（法第14条第1号）

2）一定の数量以上の危険物の貯蔵場等（法第14条第2号）

3）県又は市町村の耐震改修促進計画に記載された道路に敷地が接する通行障害建築物（法第14条第3号）

⑤市有建築物

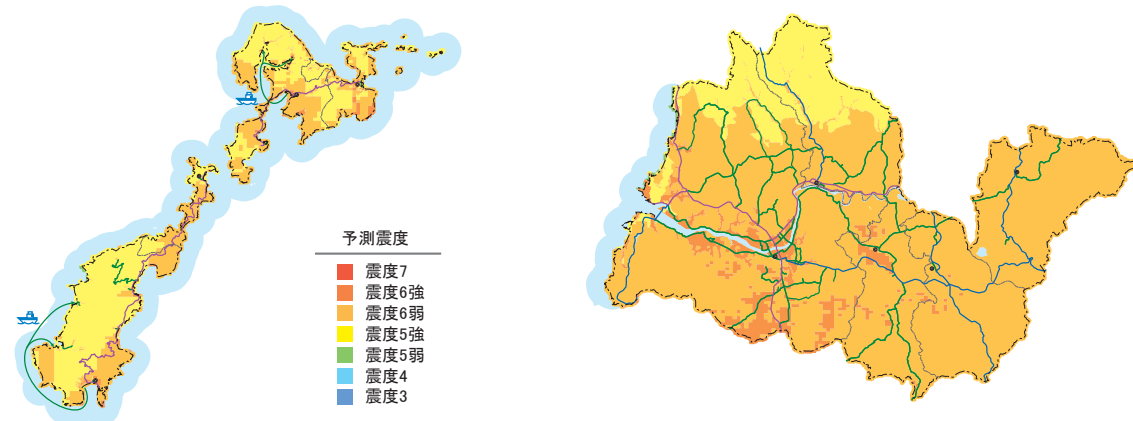
耐震化の目標

平成32年度までに、すべての住宅・建築物の耐震化率を95%とする。
平成37年までに、耐震性が不十分な対象建築物を概ね解消する。

想定地震規模

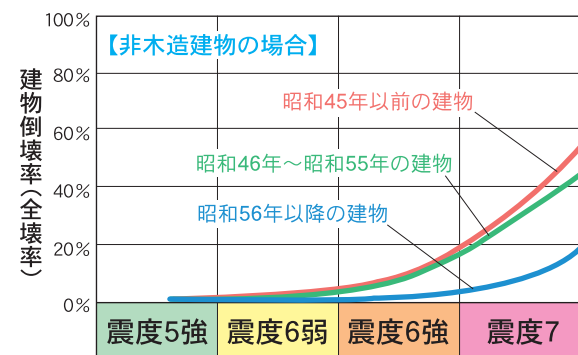
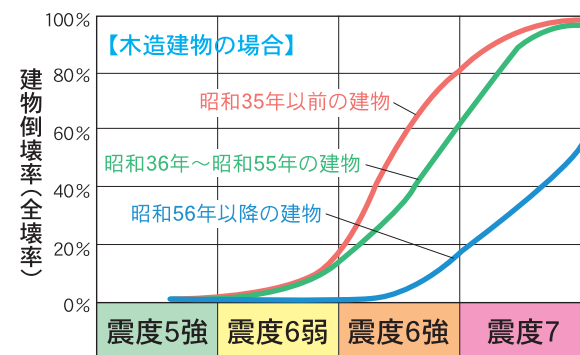
揺れやすさマップ

◆薩摩川内市で想定される地震の最大の揺れは、川内川沿いや市の南部の一部で震度6強、その他の地域においては震度5強から6弱と予想されています。



予想建物全壊率

内閣府が示すデータでは、震度6強以上の地震が発生した場合、昭和55年以前の建物倒壊率が高くなります。



あなたの家は安全ですか？

安心して暮らしていくには、足元からの取り組みが大切です。
まず、自分の家の耐震性を知り、できることから耐震化の取り組みを始めましょう。

「耐震診断」のすすめ

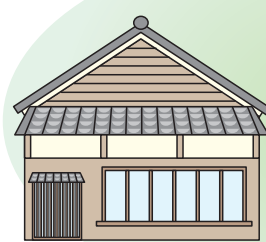
建物の倒壊を未然に防ぐため、既存の建物が地震による崩壊の恐れがあるかないかを把握することを「耐震診断」といいます。
まずは、耐震診断で建物の耐震性を確かめる必要があります。

「耐震改修」とは

大地震に備えて、耐震診断を受けた結果、耐震性に問題がある建物は、適切な補強工事が必要です。このことを耐震改修といいます。

耐震診断を実施する事が望ましい建物…

●昭和56年以前の住宅など、古い建物



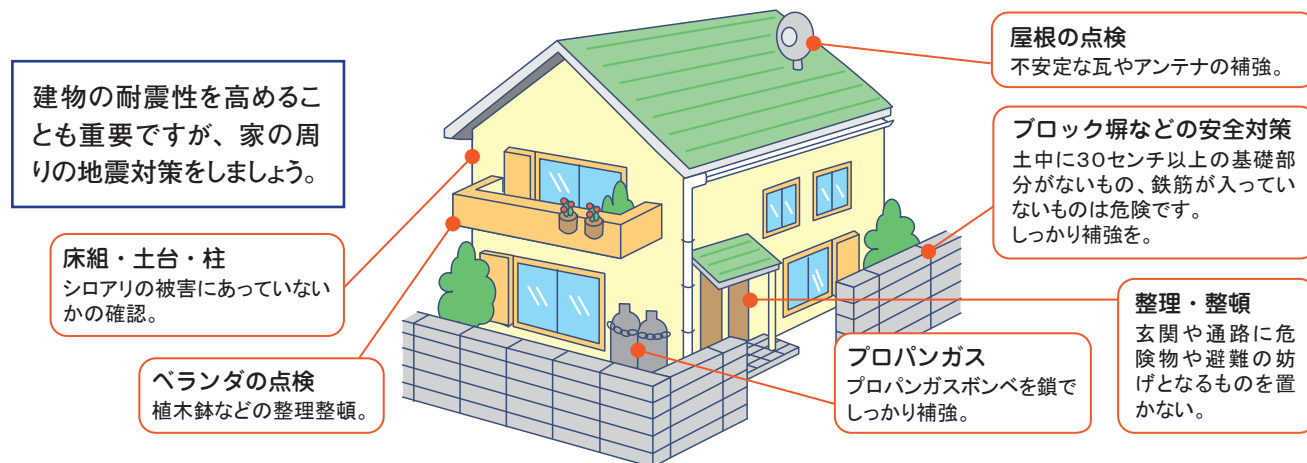
昭和56年に耐震基準が見直しされ、その年の前後で建物の耐震性に違いがあります。昭和57年以降の新耐震基準では、床面積あたりの必要壁長さなどが強化されています。昭和56年以前建築の住宅にお住まいの方は、特に耐震診断を受けることが重要です。また、老朽化が著しい建物も早期の耐震診断が重要です。

●バランスが悪い建物

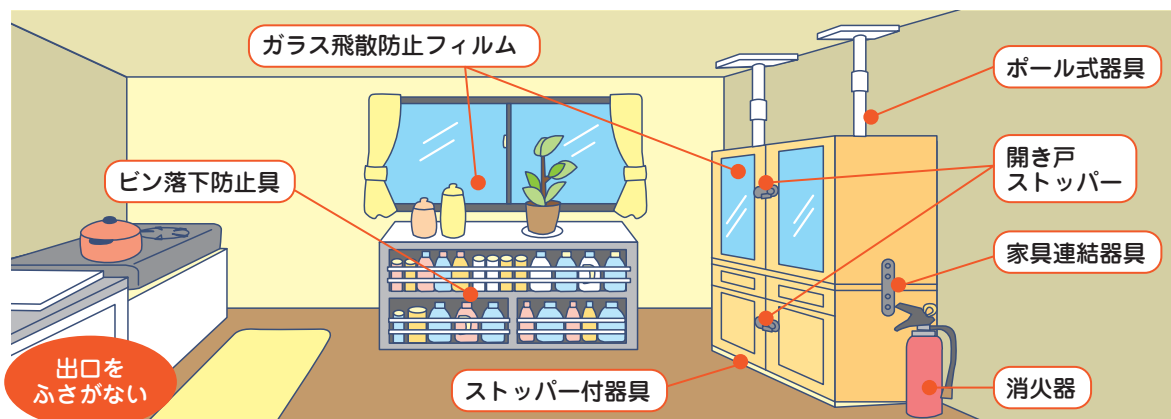


一階の部分が駐車場だったり、大きな吹き抜けがある建物、壁、窓の配置が偏っている建物など、バランスが悪い建物も耐震診断が重要です。（特に平成12年以前の建物）

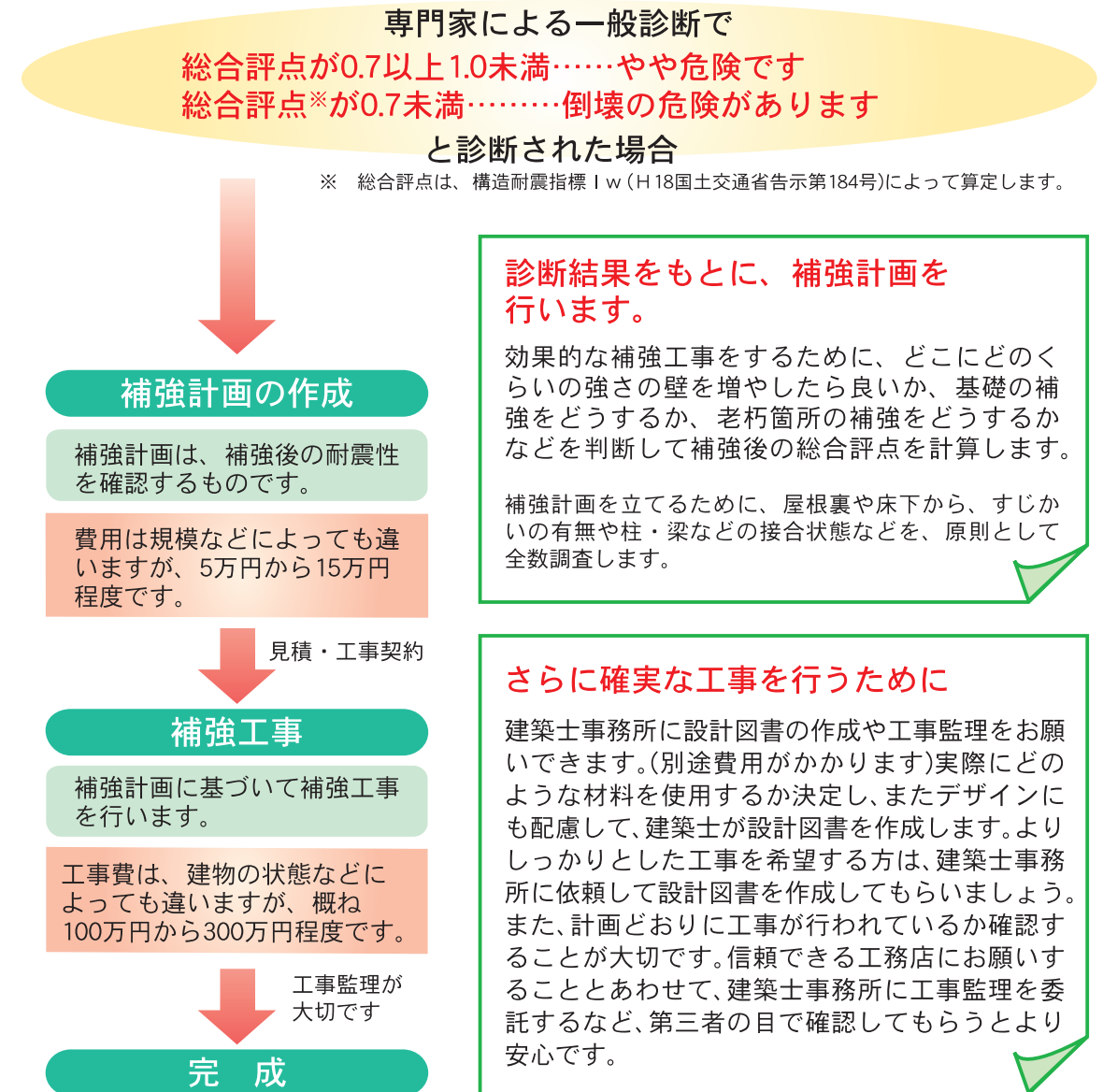
家の周辺の安全対策を！



家の中の安全対策も！（台所など）



木造住宅の耐震診断から補強工事までのながれ



地震が起きた時

- 家中
- 丈夫なテーブルの下などに身を寄せ、揺れがおさまるまで様子をみて下さい。揺れがおさまってから火の始末をして下さい。
- 自動車を運転中
- 少しずつスピードを落としながら左側に寄せて下さい。避難する時は窓を閉め、エンジンキーはつけたままドアロックはしないで下さい。
- 乗り物の中
- 急停車する場合があるので、つり革や手すりにしっかりとつかまって下さい。指示がない限りは不用意に車外に出ないで下さい。
- 街の中
- 繁華街やビル街で地震に遭遇した時は、落下物から身を守って下さい。地震で傾いたり倒れやすいもの、垂れ下がった電線などには近づかないで下さい。

●家を空けて避難する時…

- 避難宅を狙った空き巣被害が多発するので、貴重品を家に残さない。
- 丈夫な履物、動きやすい服装に着替える。防寒具を用意する。
- 火災を防ぐため、家を出るときは電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉める。
- 外出中の家族にメモを残す。
- 避難は徒歩で、バイクや自動車は使わない。

